

② 令和6年度原子力防災訓練の結果(説明:鹿児島県)

原子力防災訓練の概要、外部委託による評価及び県の対応の方向性、住民アンケート実施結果について説明しました。(訓練の実施結果は「原子力だよりかごしまNo.153」に掲載しています。)

主な良好事例

- 能登半島地震を踏まえた訓練が各所に行われており、実効性の高い内容となっていた。
- PAZ内の社会福祉施設においては、要配慮者の状態についての体調の確認等や、携帯電話で関係先への避難に関する連絡を行うなど、職員が施設の避難マニュアルに基づいて対応していた。

主な改善すべき訓練及び県の対応の方向性

- 複合災害時に要員が参集できない事態を想定する必要があるか。
- 要員が参集できない事態を想定した訓練を検討する。
- 安定ヨウ素剤を配布する際、原子力防災アプリをダウンロードしていないケースや、同アプリに情報が事前登録されておらず、口頭で問診確認するケースが多く見受けられた。
- アプリのダウンロード方法に関して分かりやすく説明する動画などを用いて、同アプリのダウンロードを促進する。
- 住民説明会において、安定ヨウ素剤に関する住民への理解を深めるとともに、同アプリによる問診を活用するよう周知する。

住民アンケートで寄せられた主な意見

- 今回の防災講習会のような分かりやすい情報を広く住民へ提供する機会を増やして欲しい。
- 防災無線が聞こえなかった時のために、原子力防災アプリの登録が必要と感じた。

委員コメント

原子力災害時の避難方法を知っているかのアンケートに対して、知っていると回答した人の割合が減少傾向にある。住民への情報の周知は地道にやっていくしかない、引き続き対応して欲しい。



原子力防災アプリを使った避難所での受付

令和7年度の原子力防災訓練を来月2月7日(土)に実施します

訓練の内容については、昨年度の訓練の反省と課題を踏まえ、国や関係市町、関係機関等と連携し、より実効性のある訓練となるよう取り組んでまいります。

原子力防災の基本情報

「避難方法」知っていますか？



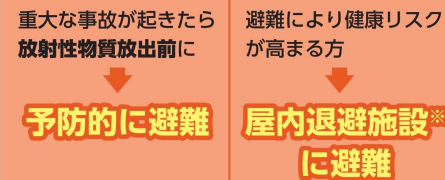
原子力発電所からの距離により原子力災害時の対応が異なります。

例えば、原子炉の燃料棒が損傷した場合などの「全面緊急事態」の対応については以下のとおりです。

PAZの場合

原子力発電所から約5km圏内で、予防的防護措置を準備する地域です。

(薩摩川内市津島地区、寄田地区、水引地区、峰山地区)



PAZの方々へは、安定ヨウ素剤を事前配布していますが、安定ヨウ素剤を所持していない場合は、一時集合場所等で配布します。

〈予防的避難の流れ〉



※放射線防護対策のある施設:14施設
(放射線防護対策施設の一覧は「原子力だよりかごしまNo.152」の4ページに掲載しています。)

事故の進展に応じて、国・県・関係市町から避難及び屋内退避等の指示があります。

指示は、テレビ・防災行政無線・ホームページ等を通じて行われますが、県原子力防災アプリには、直接指示内容が届きます。

是非ダウンロードを！

PAZ・UPZにお住まいの方は、ご自分の避難所について、市役所、町役場で確認しておくことも大切です。



UPZの場合

原子力発電所から約5km～30km圏内で、緊急防護措置を準備する地域です。

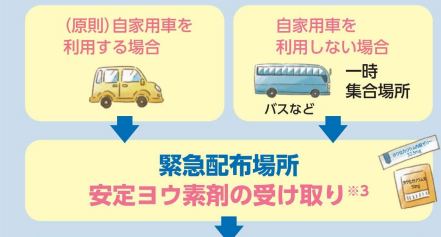
原則として

自宅などでの
屋内退避

UPZでは、被ばくを最小限に抑えるとともに、被ばく以外の健康への影響を抑えるため、屋内退避を基本としています。

放射線物質放出後に空間放射線量率が国の基準を超えた地域は
一時移転・避難

〈一時移転・避難の流れ〉



避難退域時検査場所※4

- ① 避難所に向かう途中の決められた地点で、人や車への放射性物質の付着の有無を検査します。
- ② 一定基準以上の放射性物質の付着があった場合は、その場で取り除きます。
- ③ 放射性物質を十分に取り除けなかった方は、専門の医療機関に搬送し、処置を行います。



※1…1時間あたり20μSvを超える場合には国や自治体の指示に従って1週間程度内に一時移転

※2…1時間あたり500μSvを超える場合には国や自治体の指示に従って数時間内に避難

※3…緊急配布場所等で安定ヨウ素剤を受け取らなかった方は、避難退域時検査場所でも受け取ることができます。

※4…県では、避難経路付近の公共施設など21か所を避難退域時検査場所の候補地としています。
(検査場所の候補地は「原子力だよりかごしまNo.152」の3ページに掲載しています。)